



龍ヶ崎市マスコットキャラクター「まいりゅう」

地域コミュニティ NEWS

回 覧

第8号 平成28年2月15日発行

【編集・発行】

龍ヶ崎市役所 市民生活部 市民協働課
コミュニティ推進グループ

☎0297-64-1111 内線438・439

「大宮ふるさと協議会」がスタートしました。

～小学校と共に歩む「大宮ふるさと協議会」～

大宮ふるさと協議会（平野好郎会長）は、昨年4月に設立総会を開催し、活動をスタートさせました。市内で9番目の中核的な地域コミュニティとなります。

大宮地区は、のどかな田園風景が広がり、農業が盛んですが、地区内の戸数が1,200戸弱と市内でも小規模な地区となっています。また、少子高齢化が進んでいるため、地元の大宮小学校の児童数も減少傾向にあります。

しかし、子どもたちへ向けられた温かな目は、今も昔も変わりません。大宮小学校では、市内で唯一、学校と地域の合同開催による運動会を行うとともに、児童の登下校の際には、通学班に付き添う形で見守り活動が行われています。「自分の子どもはもちろん、孫も小学校を卒業しちゃったけど、大宮の子どもたちを守っていききたいんだ！」と登下校ボランティアの方は熱く語っています。また、ふるさと協議会設立後の新たな取り組みとして、小学校の環境美化活動（除草作業）や子どもたちを招いてのホタル鑑賞会も行っています。このように、大宮ふるさと協議会は、小学校とのつながりを大切にしながら活動を進めています。



大宮大運動会（地区対抗綱引き）

活動事例研修会で情報交換

市内9つの中核的な地域コミュニティでは、それぞれ特色のある活動を展開していますが、役員の方々からは「同じような取り組みをしているけれど、他の地区ではどのようなやり方をしているのだろうか？」といった声が聞かれていました。そのような声にお応えするべく、昨年度から、各協議会の役員が一同に会し、活動事例研修会を実施しています。今年度は、昨年12月に八原コミュニティセンターにおいて、各地区の役員の他、市の

地域担当職員等が集まり研修会を実施しました。今回の研修内容は、2つの協議会のほか市内でも活発な防災活動を展開している南が丘自主防災会により、下記の内容で事例発表を行いました。南が丘自主防災会からは、自主防災会の組織構成や、年間活動計画、防災訓練の様子等が報告されました。発表の後の意見交換では、各地区共通の課題である高齢化の問題や、若年層の協議会への参加について活発な意見交換がなされました。



協議会等名	紹介のあった活動事例(主な内容)
八原まちづくり協議会	幅広い交流の充実をめざして
長山地域コミュニティ協議会	①高齢者の活動の場づくり ②蛇沼再生プロジェクト
南が丘自主防災会	いずれ発生する大災害に備えて

設立準備会

長戸地区地域コミュニティ設立準備会

長戸地区では、昨年4月、長戸小学校が城ノ内小学校に統合となりました。そのため、地区内の一体感が薄れてしまうのではないかと心配する声があがっていましたが、より良い長戸地区を皆で作ろうと、区長会をはじめとした地区内の各種団体の代表者によって、昨年10月、「長戸地区地域コミュニティ設立準備会」を発足させました。平成28年度のコミュニティ協議会設立に向け、組織や活動内容、予算等について協議を重ねています。



【木村会長】

小学校が統合となり、人間関係が希薄になりつつある今だからこそ、皆が連携・協力していきます。



【長戸地区地域コミュニティ設立準備会役員】（敬称略）

〈会長〉木村 勉（大塚町区長） 〈副会長〉湯原 幸男（薄倉町区長） 〈副会長〉中島 潔（活動推進協議会会長）
〈会計〉橋詰 昌（長峰町区長） 〈会計〉小林 克己（コミュニティセンター長）
〈監事〉宮本 敏夫（塗高区長） 〈監事〉大貫 勉（民生委員児童委員）

久保台小学校区地域コミュニティ設立準備会

久保台小学校区地域コミュニティ設立準備会は、「（仮称）久保台小学校区わくわく協議会」の平成28年度設立に向け、事業計画や収支予算、規約などの案について話し合いを進めています。今まで久保台小学校区では、地域間の交流があまり活発ではありませんでした。これを契機に、地域間のつながりを大切に、みのりある地域コミュニティを結成していきたいと考えています。

子や孫に誇れる、地域の明るい未来を作りましょう。



【小野寺会長】

【久保台小学校区地域コミュニティ設立準備会役員】（敬称略）

〈会長〉小野寺 正好（活動推進協議会会長） 〈副会長〉大塚 静雄（中根台2丁目自治会長）
〈副会長〉西山 孝一（活動推進協議会副会長） 〈会計〉井上 孝一（久保台自治会長）
〈監事〉三枝 秀樹（民生委員児童委員） 〈監事〉年見 洋子（別所町区長推薦）

各地区の活動から

龍ヶ崎西コミュニティ協議会

～龍ヶ崎西地区の名所・旧跡を歩く～

龍ヶ崎西コミュニティ協議会（海老原 劭会長）では、文化体育委員会のメンバーが中心となり、昨年度完成した地域の名所・旧跡を紹介した「西の風物語」の中から、十数か所をピックアップし、史跡を歩いて巡る「西の風物語を歩く会」を昨年10月に開催しました。

第1回となる今回は、モニターツアーとして試験的に実施したもので、地区内の方々を対象に参加者を募りました。

当日は晴天にも恵まれ、参加者やスタッフ、総勢約40名で、地域の名所・旧跡を説明を聞きながら約2時間かけて歩きました。参加者からは、「子どものころになにげなく遊んでいた場所にこんな歴史があったとは…」といった驚きの声が上がりました。今後は、地区内の方々だけでなく、広く一般の方も参加できるようなイベントにして、多くの人たちに龍ヶ崎西地区の良さを紹介していきたいとのことでした。



各地区の活動から

馴柴まちづくり協議会

～馴柴地区住民と小学校全児童が参加した 合同防災訓練を初めて行いました～

馴柴まちづくり協議会（山岡唯男会長）では、防災活動を地区内の自主防災会と連携して行うため、協議会内に馴柴地区内の自主防災会で構成された「馴柴地域自主防災会」を立ち上げました。平常時から防災に関する勉強会や防災訓練などを行い、大災害発生時には被害を最小限に食い止めるための取り組みを進めています。

昨年9月に馴柴小学校で行った防災訓練では、馴柴地域自主防災会の運営委員、訓練に参加した地区住民や小学生など、約1,000人が小学校の体育館に集まりました。

訓練では大災害を想定し、実際に開設された際の避難所の運営方法や、小学校の防災コンテナに備蓄されている物資の活用、救命訓練などを行いました。参加者からは「人数が多いと避難所運営は大変だね。やはりこういう訓練は大事だよ」といった声も聞かれました。また、市からは地震災害時地区活動拠点指定職員制度に基づく、馴柴地区の指定職員や、地域担当職員（サポーター）も参加し、MCA無線による災害連絡通信の訓練等を運営委員と協力して行いました。

今後も、未曾有の災害に備え、活動を活発にしていきたいとのことでした。



八原まちづくり協議会

～冬の交通安全・防犯キャンペーン～

八原地区の安全・安心体制がスタート

八原まちづくり協議会（池田 吟会長）では、昨年12月にさんさん館前広場において、防犯防災委員会メンバーを中心に、城ノ内中学校弓道部や八原地区防犯連絡員、八原地区交通安全協会、藤ヶ丘6, 7丁目役員の約70名が一同に参集し、「地域の安全は、地域で守る」との防犯宣言を行いました。その後、2つのグループに分かれ、城ノ内中学校の生徒とともに同日開催の「たつ

のこマルシェ」（主催：まち

づくり文化財団）の来場者に交通安全や防犯のチラシとポケットティッシュ、地元でとれたゆずを手渡したり藤ヶ丘6, 7丁目地区内の住宅を戸別訪問し啓発活動を行いました。

受け取った方からは「年末なので気をつけないと」といった声も聞かれました。今後も、八原地区の交通安全・防犯意識の高揚のため、活動を継続させていきたいとのことでした。



地域住民同士の支え合い

～「はっぴー♡あしすと」始めます！～

長山地域コミュニティ協議会（田賀直樹会長）では、地域住民の助け合い活動「はっぴー♡あしすと」の今年4月開始に向け、準備を進めています。

「はっぴー♡あしすと」誕生の背景や協議会の様子について田賀会長に伺いました。



長山地域コミュニティ協議会・田賀会長に伺いました

長山地域コミュニティ協議会の会長を務めます田賀です。当協議会は、平成25年5月の発足からまもなく3年目を迎え、長山地区の地域特性にあった事業を展開しているところです。特に、高齢化の問題と、蛇沼公園の環境美化活動に力を入れております。



【田賀会長】

地域住民の絆を強め、高齢者の生きがいとしての相互の援助活動を4月から始めます。

高齢化の問題はどここの地区でも喫緊の課題となっておりますが、長山地区でも、最初の方が入居されてから30年以上が経過し、高齢化率も30%を超える自治会も出てきています。そのようななか、コミュニティ協議会が発足し、将来に向けて課題を改善するための「将来構想検討会」の中で、蛇沼公園の環境美化と少子高齢化問題に取り組みたいとの声が上がりました。ともすると目先の問題だけに右往左往する状況から、先を見通した住みよい街を目指して、また、相互助け合いの精神で住民同士の絆を強めたいとの思いから、「蛇沼公園の環境美化活動」と「高齢者の生きがいづくり」の2つのプロジェクトをスタートさせました。蛇沼公園はかつては自然豊かな住民の憩いの場でしたが、夏場などは雑草やシノダケが生い茂る状況となっております。一昨年の夏からボランティア30～40名で毎月整備作業を続けており、公園を利用する方々から感謝されております。

高齢者の生きがいづくりでは、女性の交流の場として、お茶を飲みながらテーマを決めて語らう「ゆるカフェ」がコミュニティセンター内にオープンしましたが、男性の居場所づくりが課題となっております。一昨年に実施した高齢者向けの意識調査では「ちょっとしたことを手伝ってもらいたい」といった方がいる一方、「地域の困っている人の役に立ちたい」と言った元気な方々もいることが分かりました。そこで、長山地区限定の住民相互による助け合い活動「はっぴー♡あしすと」の設立に向けて、現在、準備を進めているところで



す。高齢者でも、元気でいきいきとされている方はたくさんおります。活動への協力者を募ったところ、十数名の方から手が挙がりました。昨年12月に開催した説明会では、支援内容等について活発な意見交換が行われました。元気な高齢者に地域での役割や活躍できる居場所を作り、生きがいにつなげることができれば地域の活性化にもつながるものと考えております。